

2018年度  
(第4四半期)

## 広貫堂グループ IR情報

### 株式会社 広貫堂

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

売上面では、168億8,400万円となり前年同期比109.0%、計画比108.2%でした。  
これは医薬品製造受託事業において、国内最大規模の顆粒剤製造移管事業が呉羽工場にて予定通りに進み、関連製剤の製造量が最大化した事、さらに新規受託品目の獲得やOTC製品を中心とした既存受託製品の受注も好調だった事が要因となります。

収益面では、経常利益が10億5,400万円となりました。

これは上述した呉羽顆粒剤工場の本格稼働及び既存受託製品の受注増に伴い、生産効率が高まり、収益性が向上したためとなります。

(事業運営面)

来年度以降も引き続き、既存受託品目の高品質で安定的な供給、新規受託品目獲得に注力してまいります。

#### ○ 課題への取組み

・「既存事業での更なる収益力の向上」のため、工場稼働率の向上、販管費のコストコントロールに注力してまいります。

・全社を挙げて顧客の求める「差別化できる技術・製品」の創出を推進してまいります。

#### ○ トピックス、適時情報

・2020卒対象「富山県奨学金返還助成制度」に登録し、助成対象者を募集しました。

#### ○ 業績の概況 (広貫堂・単体) (第4四半期、2018年4月～2019年3月) (千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	11,892,517	12,797,690	15,486,931	16,884,540
経常利益	-970,206	-771,300	277,483	1,054,783

### 広貫堂グループ

#### ○ 連結経営成績に関する定性的情報

連結売上高は、187億1,600万円となり、前年同期比105.7%、計画比106.2%でした。

収益面では、経常利益が10億5,700万円となりました。

増収増益の理由は単体における理由と同様となります。

引き続き、収益性増加のため、工場稼働率の向上、販管費のコストコントロールに取り組んで参ります。

#### ○ 業績の概況 (広貫堂グループ・連結) (第4四半期、2018年4月～2019年3月) (千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	14,987,496	15,561,674	17,713,740	18,716,462
経常利益	-982,832	-601,961	400,846	1,057,845

2018年度  
(第4四半期)

## 広貫堂グループ IR情報

グループ各社

### 日本薬剤 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

売上高は主力製剤であるドリンク剤市場自身がシュリンクしていることにより前年同期比95.3%の51億9500万円となりました。また、収益面でも原材料、輸送費などのコストアップが重なり経常損失2,900万円となりました。来期は既存製品の値上げ、ドリンク剤以外の製品提案などにより増益を見込んでいます。

(事業運営面)

ヘルスケア事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。年間を通じて順次製品を上市しております。

○ トピックス、適時情報

新発売(4~3月)

医薬部外品 100mlドリンクリニューアル 1アイテム  
 医薬品 30ml葛根湯内服液 2アイテム、点眼薬 1アイテム  
 清涼飲料水 500mlペット飲料 2アイテム、50ml瓶飲料 1アイテム、65ml乳酸菌飲料 1アイテム

○ 業績の概況 (第4四半期、2018年4月~2019年3月) (千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	5,464,078	5,435,830	5,448,359	5,194,694
経常利益	39,250	35,644	21,860	-29,331

### 広貫堂薬品販売 株式会社

○ 事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

第4四半期は販売面では、目標比99.9%、前年同期比101.8%、利益面では、目標比プラス1,800万円、前年同期比プラス2,200万円と推移致しました。販売面では、組織機能強化による販売体制の見直しを行い、コスト面では、家賃の減額交渉、社員の定着化による募集関連コストの低減を行いました。又、粗利益を確保する為、仕入れ及び棚卸効率の改善に努めました。

(事業運営面)

販売面において原価率の良い自社商品の構成比が上昇してきました。また、固定費化しているコストを変動化し全体コストの低減化に努めました。またキャッシュレス対応人員の増加を引き続き行います。幹部候補者の教育・育成による組織の活性化も引き続き行っています。

○ トピックス、適時情報

2019年1月18日第5回取締役会が開催されました。  
 商品戦略の一環としてサンリキソZ5000の拡売を開始しました。  
 一部営業所でキャッシュレス対応を開始しました。

○ 業績の概況 (第4四半期、2018年4月~2019年3月) (千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	1,611,346	1,511,888	1,413,697	1,415,616
経常利益	-130,037	-24,926	-46,399	6,431

2018年度  
(第4四半期)

## 広貫堂グループ IR情報

グループ各社

### トキワ広貫堂 株式会社

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

第4四半期は販売面では、目標比38.6%、前年同期比44.1%、利益面では、目標比マイナス2,280万円、前年同期比マイナス2,090万円で推移致しました。これは、固定化している経費を見直しの進めたものの、前期に組織体制のスリム化を行った影響がまだ残っていたためとなります。引き続き、組織体制強化に努めるとともに「取引顧客のスリム化」「キャッシュレス推進」など抜本的な改革を行います。

(事業運営面)

主力商品である「サンキョZ5000」の拡売を引き続き行いました。

#### ○ トピックス、適時情報

2019年1月18日第4回取締役会が開催されました。

#### ○ 業績の概況 (第4四半期、2018年4月～2019年3月) (千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	217,622	206,584	200,307	134,901
経常利益	-4,644	-14,753	3,553	-41,837